

講演会 報告書

地域をもっと良くするために！
アクションを起こして
可能性の種をまく

開催日：2019年1月17日（木）

記録： かながわ「福島応援」プロジェクト（kfop）
富士ゼロックス株式会社 端数倶楽部
作成： かながわ「福島応援」プロジェクト（kfop）

2019年1月24日発行 不許複製・禁無断転載

1. はじめに

2011年3月に発生した東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故からまもなく丸8年、福島県では避難指示の解除も段階的に進み、特にこの1~2年は顕著な変化が見られますが、いまだ原発事故は収束したとは言えず、多くの課題が残っています。生活環境がまだ整っていない地域もあります。私たち福島県外に住む者も、関心を薄れさせることなく、福島について学ぶべきことはまだ多くあります。

かながわ「福島応援」プロジェクト(kfop)は、神奈川から福島におもむき現地の方々をお手伝いすること、経験を伝えることを柱として活動을続けており、また今後も長く福島にかかわり続けたいと考えています。

その事業のひとつとして、被災当事者の方や現地で活動している方、福島に関するアクションにかかわっている方などをお招きして勉強会や講演会を毎年企画しています。このうち講演会は、広く一般の方をターゲットとして、福島の現状を伝え、現地への関心を高めることを目的としています。

この第7回講演会では、当会の2018年度視察研修で訪問する相馬市に注目し、地域をけん引する行動力のある方を講師としてお招きしました。東日本大震災の直後には、ご自身も被災されながらも、がれき撤去、ボランティア団体の設立、仮設住宅での自主的な活動など、さまざまな活動を主導してこられました。そして現在は、行政だけに依存せず自分たちの力で地域を良くすることを目指して事業に取り組んでおられます。

併せて、この講演会の開催を通じて以下の効果を狙いました。

- ・ 震災と原発事故の影響を受けた地域の現状を神奈川の方々に伝える
- ・ 当事者から直接お話を聞くことで、学び、共感する
- ・ 自らアクションを起こすことについて考える
- ・ 新しい方々との情報交流も図り、持続的な福島の応援・発信につなげていく
- ・ 団体間の協力と交流の機会としても活用する

2. 開催概要

(1) 日時・式次第

開催日時	2019年1月17日(土)19:00~20:45
会場	かながわ県民活動サポートセンター 3階 305会議室 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2(横浜駅西口から徒歩5分)
タイトル	地域をもっと良くするために！ アクションを起こして可能性の種をまく
登壇者	小幡広宣さん(福島県相馬市在住)
対象	災害ボランティアや地域活性化に関心のある方、一般市民
共催	かながわ「福島応援」プロジェクト(kfop) 富士ゼロックス株式会社 端数倶楽部

講演会 報告書

協力	一般社団法人そうま食べる通信 認定 NPO 法人かながわ 311 ネットワーク NPO 法人かながわ避難者と共にあゆむ会 かながわ東北ふるさと・つなぐ会 特定非営利活動法人神奈川災害ボランティアネットワーク かながわ災害ボランティアバスチーム
協賛	azbil みつばち倶楽部
後援	神奈川県、相馬市

式次第

[ご挨拶].....	19:00~19:05
かながわ「福島応援」プロジェクト(kfop) 代表 渡辺孝彦 富士ゼロックス株式会社 端数倶楽部 災害タスクリーダー 森本 健 司会:かながわ「福島応援」プロジェクト(kfop) 東尚子	
[第一部].....	19:05~20:00
小幡広宣さんご講演	
[休憩].....	10分
[第二部].....	20:00~20:40
「小幡さんにここが聞きたい！」	
[閉会].....	20:40~20:45

※講演会終了後に近隣の飲食店で講師を交えた懇親会を開催(21:00~22:30)

(2) 参加者実績

講演会	43人(うち一般21人、登壇者・主催団体スタッフ22人)
懇親会	17人

(3) 登壇者略歴

◆小幡広宣(こわた ひろのぶ)さん

相馬市出身、相馬市在住。土木業経営、「そうま食べる通信」共同編集長。相馬市の震災語り部としても活動している。

東日本大震災では自宅が津波で被災し、仮設住宅で生活。災害ボランティア団体「走馬会」を設立し、がれき撤去などのボランティア活動を実施。仮設住宅ではアクリルたわしの製作と販売などの活動をおこなう。小中学校での放射線測定、福島の子どもを熊本に招く「福島⇄熊本 0 円キャンプスクール」の運営にもかかわる。その縁で、熊本地震の発災後には募金活動、物資提供などもおこなった。



2015 年、行政だけに依存せず自分たちの力で地域を良くすることを目指して、地元の仲間と『そうま食べる通信』(日本食べる通信リーグ所属)を創刊。相双地域の魅力ある生産者を取材して記事を執筆し、情報誌と産品をセットにして購読者に届けている。

3. 講演の内容

(1) 第一部

第一部では、小幡広宣さんより、スライドに沿ってご講演いただいた。以下その要約を示す。

最初のスライドは、私が大好きな相馬で一番の風景。ぜひ相馬に来てほしいという思いを込めた。

簡単に自己紹介を。現在 42 歳。2007 年に個人事業として広栄土木を開業。ボランティア団体「相馬遊楽応援団」を設立し、代表就任。2011 年、35 歳のときに東日本大震災で自宅が被災。災害ボランティア団体「走馬会」を設立し、代表就任。2014 年に広栄土木を株式会社化、代表取締役に就任。2015 年に一般社団法人そうま食べる通信を設立。『そうま食べる通信』は共同編集長という体制だが、団体としては代表理事に就任。2016 年に株式会社 AFUEQ を設立、代表取締役に就任。

事前の打ち合わせでは前向きな話を、と言われたが、震災が私の人生の基点といっても過言ではないので当時のことをお話ししたい。震災直後、現場を巡回し、いったん自宅に戻った。次に南相馬市の現場へ向かおうとしたが大渋滞で、何時間もかけて現場に着いたとしても社員に会えるかどうかの確証がなく、向かうか戻るか悩んだ末に自宅に引き返した。自宅は海に近く、当初の津波警報は 3m だったが 10m に変更されていたため、渋る家族を説得して避難した。住んでいた地区は津波で流された。翌日、市役所の土木課に顔を出し、重機でがれき撤去に従事した。1 日かけて数メートルというような作業。近所の人から、小幡さんち残ってるよ、と言われて見に行った。たった一軒、形をとどめた自宅を見て、宗教を信じているわけではないが、神様に「お前が動きなさい」と言われた気がした。

南相馬市長は全市民の避難を決めた。相馬市長は、自衛隊からの避難の勧めに対し、国からの指示でなければ避難はしないと答えたらしい。市役所では相馬に残って復旧作業を続けてほしいと頼まれ、相馬に残ることを決心した。相馬市内では、自衛隊・各県警・メディアがいなくなった中、作業をするのは地元の消防団と建設会社のみ。自分の命の重さはどんなものなのか、価値観が崩壊した。

自分が動かなくてとはと、とにかくできることをやった。街頭募金活動では何度も都内に行った。ペットを連れて避難できない人がいたため犬の避難所を開設した。仮設住宅では暑さ対策のゴーヤの配布。小中学校の放射線測定。福島⇄熊本 0 円キャンプスクール。仮設住民によるアクリルたわしの制作販売。しかしトラブルも多かった。募金活動に中学生を連れていくと、子どもを利用した金集めと言われた。犬の避難所をクローズするときには、金なら払うからまだ預かってくれという無責任な飼い主がいた。ゴーヤ配布を市に申請したら、やるなら全世帯でないと言われ、アンケートで栽培を希望した世帯に配布したら、後から「うちも欲しい、なんでくれないんだ」と言われた。0 円キャンプは、最初は自分の息子を夏休みだけ熊本に預けようと思ったが、そのニーズはもっとあるよねと話が大きくなり、最終的には個人で 200 万円ほど負担することになった。放射線測定は一番大変だった。教育委員会、校長会、PTA などに話をしたが、誰も責任を取りたがらずたらい回しになった。市長と話したいと掛け合ったり、教育長に一筆書くよう迫ったりして、ようやく OK を取り付けた。

そういったトラブルを経験し、のちのち考えると、行政への依存、原発への依存があったこと、自分だけよければいいという風潮に気付いた。復興、地域づくりに必要なのは、お互い様・感謝の心。そういう心を育むにはどうしたらいいのか1年ぐらい考えて行き着いた答えは、「福島が失いかげ、人間が生きていくために不可欠な『食』ではないか」ということ。一次産業に係る仕事がしたいと思うようになった。しかし現実的に、土木工事の仕事はものすごく忙しく、自分が生産者になってもあまり貢献はできない。

そんなときに『東北食べる通信』と出会った。年 4 回、生産者の想いやこだわりを取材した冊子と、その生産者が育てたり獲ったりした食材をセットで届けるもの。創刊号には、どこよりも「そうま」がやるべきじゃないか、と掲げている。『そうま食べる通信』では、首都圏での交流イベントと、相馬に来てもらう、生産者を訪ねるツアーを開催している。相馬の食の安全性、相馬が誇る生産者を知ってもらうことから、交流人口を増やす。相馬のファンを増やし、親戚づきあいの輪を広げることが目的。

震災のとき南相馬の現場もあったが、屋内退避指示のため物流がストップし、生活必需品がない。取引先が避難してしまい売掛を回収する見込みが立たない、銀行も開いてない。家がない、仕事がない、お金がない、笑顔がない。みんなの心がすさみ、足を引っ張りあうようになる。ねたみ、やっかみも出てくる。

避難区域への燃料運搬の仕事がもうかるという話があり、AFUEQ を設立したが、参入したころにはもう同業者であふれていた。お金が目的だとうまくいかない。お金は手段でしかない。社員、家庭を守るのは当然のこと。地域のために？ なぜなら地域が良くなれば回りまわって自分にも返ってくる。一時的に自分だけよくなっても地域全体が良くならない限り続かない。

話はちょっとさかのぼり、25 歳のときに会社を辞めて自転車で本州・四国・九州を旅した。周りから「すごいね」と言われて送り出されたが、鹿児島を折り返すまで、帰りたいとばかり考えていた。でも応援されて出発したからには、かっこ悪くて引き返せない。一步踏み出しさえすれば、あとはやるしかない。勇気さえあれば誰にでもできる。

震災で職を失った方々をサポートするために始めた、アクリルたわし制作の活動のご縁で、八王子の児童養護施設の子どもたちをサポートする活動につながった。児童養護施設の子どもは複雑な家庭環境にあったため就職しても長続きしないことがあり、いったん辞めるとその後の選択肢がない。選択肢のひとつとして、地方で暮らす、相馬で暮らすという可能性を見てもらえたらと考え、ホームステイを受け入れている。そのうちの 1 人でも相馬に来て働いてくれるようになれば、相馬の労働人口が増える。目に見える結果はないかもしれないし、自己満足かもしれないが、可能性の種をまき続けることが大切。

今日お伝えしたかったことは、一步踏み出す勇気、可能性の種をまく、相馬のために動く、という 3 つ。

去年から仕事に重きを置くようになってきた。相馬のため、これは、社員や家族も含まれているし、本業の土木工事でも地域に貢献したい。今までは復興特需で仕事はそれなりでもやってこられたが、ここで自分の会社の基盤を整えようと考え、昨年事務所に建設し、社員 10 名から 20 名に増やした。1 月 11 日

には経営指針発表会を開き、企業理念を策定した。

一步踏み出すことにちゅうちょせず、可能性の種をまき続け、息子たちの代に、よりいい形で相馬を渡していくことを固く誓って締めくりたい。



小幡さん



会場の様子

(2) 第二部

第二部では、「小幡さんにここが聞きたい！」と題し、さらに詳しく聞きたいテーマや質問を休憩時間に参加者から用紙に記入して出してもらったものを元に、小幡さんとやり取りしながら話を進める形を取った。

Q 八王子の島田療育センターの小沢先生とは、どのようなご縁で知り合った？

A 熊本の方と震災前からご縁があり、そのつながりで、小沢先生のネットワークにサポートの願いをさせていただいた。

Q 自分たちで少しでも良くしようと考え、動ける人をどうやって増やしてきたのですか？

A 周りに問題意識を持った仲間が多かったことと、自分が主導したことは人前で話をしたことかと思う。高校での講話の後、校長室で休んでいると、泣きながら感想を伝えに来た子が5人ほどいた。少しでも伝わったのかな、と思った。

Q 相馬の労働人口を増やすことにつながればという話があったが、働き口や職種にはどのようなものがありますか？

A 職種はどのくらいあるかわからないが、土木業界はたくさんほしい。現場管理できる方がいたら、ご紹介ください。

Q 児童養護施設の子もたちを相馬に招待する活動について、対象年齢、滞在期間、受け入れ人数等を教えてください。

- A 対象年齢は中学生から高校 3 年くらい、2 泊 3 日。少なくとも 12 名くらいいた。去年までは楽しんでもらう企画がメインだったが、今年は職業経験などもしてもらいたいと思う。
- Q 私は相馬出身で、東京で暮らして 18 年になる。都内で復興関連のイベントは多いが相馬市が出展することはあまりない。現在の相馬市で求められている支援はどんなことですか？
- A 支援の気持ちには本当に感謝しているが、今は「支援」という言葉にはピンとこない。ただ来てもらった人に楽しんでほしいし、今までなかったつながりができてほしい。支援してほしいという感覚はなく、一緒に何かやっていきたい。
- Q モチベーションを持ち続けているパワーはどこから来ていますか？
- A 震災時あれだけのことがあったのに相馬を出なかった、相馬が大好きなんだと思った。その思いから来ている。大好きな相馬を息子にバトンタッチしたい。
- Q 今、ご自身のこと、または周りについて、足りないと思うこと、欠けていると思うものは？
- A 日常生活だけで一日終わってしまう。風化すると思う。自分はこういう講演をしたり語り部をしたりすることで思い返すことがあるが、そういう活動をしていない一般の人に気持ちをキープしてもらうのは難しいだろうなと思っている。
- Q 避難がきっかけでコミュニティが崩れ、元に戻りづらいという話を聞く。避難指示が出ず、地元に残った住民や企業がコミュニティの維持と活性化に貢献するために、社員の方々がどう地域とかかわっているか、あるいは小幡さんから社員に話していることはありますか？
- A 個人的な見解ではあるが、相馬に深く根差した会社を作る。地域をよくするために働く、社員が互いの個性を認め合い働きやすい会社になりたいと思っている。そう言い続けることで変わってきていると思う。たとえば社員が、やらなくてもいいののだが地域のために役に立つ作業をしていた。そういうことが地域をよくするのではないかと思う。
- Q 交流人口拡大などが話題になるが、地元の人間としてどう思いますか？
- A 交流人口は増えたほうが良いと思う。定住はハードルが高い。『食べる通信』もその機会創出だと思っている。根本解決にはならないまでも、あちこちで交流がおきたら少しでも良くなるのではないかと思う。そういう繰り返し。
- Q 『そうま食べる通信』は 100 号まで続けられそうですか？
- A 無理だと思う。相馬を好きになってくれる人、相馬の美味しいもの、生産者の顔を見て、この人の作るものなら安心だと信じてもらうためのもの。100 号だと年 4 回で 25 年にもなる。
- Q 女性の活動について、どこでもベテランのかあちゃん達の活動はよく耳にするが、若い世代の女性は仕事や子育てが忙しいとは思っているものの、ふるさと相馬を盛り上げる活動などはどうだろうか？

A 若い女性たちとの接点がないので分からない。男女平等の観点ではちょっとどうかとは思いますが、役割分担として、子育ても地域貢献のひとつと思う。

Q 地域のため、相馬のためという名目で活動を始めたとき、ご家族や社員の反応はどうでしたか？

A 震災後に避難所には2か月いたが、妻子を避難所に残してあちこち行っていたので、「私たちも被災者だって分かってるよね？」などと怒られた。社員は受け入れてくれた。しょうがないな、と諦めているのかもしれない。熊本で1回目の地震が起きたときは行くつもりはなかったが、2回目に大きな地震があったとき、現地の知人から「助けてくれ」と連絡があった。公認の避難所ではなかったため支援物資が届かなかっらしく、行くと返事もしていないのに、必要なもののリストを送ってきた。もう行くしかないと思い、朝5時からテレビで現地の様子を見ていたら、妻には「行くんでしょ」と言われた。現地までトラックを運転していくのは危ないと、60歳を超えた父親と一緒に行くよう言われた。父はトラックの運転席で、自分はコンテナの中で仮眠しながら移動した。予定していた最終日には雨の予報で、ホテルが取ればもう1日滞在したかったが、無理はできないと判断して帰ってきた。会社に戻ったら「もう帰ってきたんだ」と言われた。震災で自分たちがお世話になったので、そういうときには返したい、と思ってくれているのではないかな。

Q 浜通りでは女性がNPOの代表などで活躍している話をよく聞かすが、相馬ではあまり聞かない。そのあたりはどうですか？

A 古い、よそ者を受け入れない土地柄、武家社会、男が上で女が下という風潮がもしかしたら残っているのかもしれないと思うことはある。悪いところかもしれないが、いいところかもしれないと思いつつ、それが地域の特徴であるので、それを活かしていけたらと思う。変えたほうがいいのか、変えられるのか、変えるべきなのかはちょっとわからない。

当日は『そうま食べる通信』編集部員でもある常世田さんをご出席くださっていたので、自己紹介と今後の展開についてコメントを頂いた。

最後に、協力団体の「かながわ東北ふるさと・つなぐ会」会長の今里さんに講評をお願いした。



『そうま食べる通信』常世田さん



つなぐ会 会長 今里さん

別紙 1 広報用チラシ



福島県 相双地域の生産者の
魅力を伝える情報誌

『そうま食べる通信』共同編集長
そして相馬市の震災語り部、
さまざまな顔を持つその正体は
…土建屋さん？！

津波で被災し、仮設住宅での生活
や地元・相馬でのボランティア
活動を通じて抱いた想い、
そして自らアクションを起こす意味、
地域のために行動する意味とは。

講師：
福島県相馬市在住
こわた ひろのぶ
小幡広宣 さん

**地域をもっと良くするために！
アクションを起こして可能性の種をまく**

2019年1月17日(木)
19:00～20:45 (開場18:30)
定員：50名 (事前申込の方を優先)

かながわ県民活動サポートセンター 3階305会議室
横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 (横浜駅西口から徒歩5分)

お申し込みはkfopホームページまたはメールで (裏面参照)

共催： かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)、富士ゼロックス株式会社 端数倶楽部
後援： 相馬市、神奈川県
協賛： azbil みつばち倶楽部
協力： 一般社団法人そうま食べる通信、認定NPO法人かながわ311ネットワーク、
NPO法人かながわ避難者と共にあゆむ会、かながわ東北ふるさと・つなぐ会、
特定非営利活動法人神奈川災害ボランティアネットワーク、かながわ災害ボランティアバスチーム

2018年度kfop講演会 

別紙 2 参加者アンケート用紙

講演会（2019年1月17日）に関するアンケート

本アンケートは、講師の方へのフィードバック、活動報告、今後の企画での参考のために実施します。
 なお、回答は統計として処理し、文章は個人を特定できない形に変更させていただく場合があります。
 ≪電子メールでも受け付けます。info.kfop@gmail.com まで件名:【アンケート】でお送りください≫

1. 今回の講演会の情報をどこで知りましたか？ 丸を付けてください。

- a. 共催団体による告知
 - a-1 かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 - a-2 富士ゼロックス株式会社 端数倶楽部
- b. 登壇者や協力団体による告知
 - b-1 小幡広宣さん／そうま食べる通信
 - b-2 かながわ 311 ネットワーク
 - b-3 かながわ避難者と共にあゆむ会／かながわ東北ふるさと・つなぐ会
 - b-4 神奈川災害ボランティアネットワーク
 - b-5 かながわ災害ボランティアバスチーム
 - b-6 その他（具体的に _____)
- c. 友人・知人からの紹介 _____)
- d. インターネット検索 _____)
- e. その他（ _____)

Web アンケート
 フォームはこちら



2. 今回参加した理由は？（いくつでも）

- a. 福島に関心があるから
- b. 登壇者に関心があるから
- c. 講演のテーマに関心があるから
- d. その他（具体的に： _____)

3. 今回の講演のテーマや進行はいかがでしたか？

- a. よかった b. 普通 c. よくなかった
- （どのような点が？ _____)

4. 今回の講演についてご感想・ご意見など、自由にお書きください。

5. 今後の講演会の企画に向けて、どのような方のお話を聞いてみたいですか？

6. あなたご自身についてお答えください。（あてはまるものに○をつけてください）

性別	男性 ・ 女性
年代	20代 ・ 30代 ・ 40代 ・ 50代 ・ 60代 ・ 70代以上
職業	会社員/会社役員 ・ 公務員 ・ 自営業 ・ パート/アルバイト ・ 学生 ・ 専業主婦（主夫） ・ その他 ・ 働いていない

別紙 3 参加者アンケート集計結果

参加者数	43
回答数	34 (79%)

1. 今回の講演会の情報をどこで知りましたか？

a. 共催団体による告知	
a-1 かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)	27
a-2 端数倶楽部	2
b. 登壇者や協力団体による告知	
b-1 小幡広宣さん／そうま食べる通信	4
b-2 かながわ 311 ネットワーク	2
b-3 かながわ避難者と共にあゆむ会／ かながわ東北ふるさと・つなぐ会	3
b-4 神奈川災害ボランティアネットワーク	1
b-5 かながわ災害ボランティアバスチーム	0
b-6 その他	0
c. 友人・知人からの紹介	4
d. インターネット検索	1
e. その他	2
・ kfop 会員向けのメール	1

2. 今回参加した理由は？ (いくつでも)

a. 福島に関心があるから	29
b. 登壇者に関心があるから	16
c. 講演のテーマに関心があるから	17
d. その他	2
・ 復興支援にかかわりたいため	

3. 今回の講演のテーマや進行はいかがでしたか？

a. よかった	30
b. 普通	3
c. よくなかった	0
x. 無回答	1

(コメント欄)

- ・ 気負いなく正直に自分の考え方を話してくれたこと。
- ・ 被災した「生」の声が聞けたこと。
- ・ 地域のためになる→まわりまわって自分のためになるという点に説得力がありました。
- ・ 相馬の今がわかりました。
- ・ タイムな時間の中でもスムーズに進行されていたと思う。
- ・ 質疑応答を紙で出してもらおうというやり方はよいと思いました。たくさん質問が出ましたので。震災復興というだけでなく、地域コミュニティ活性化にも役立つテーマだと思いました。
- ・ 「ここが聞きたい」の紙、よいと思います。

4. 今回の講演についてご感想・ご意見など、自由にお書きください。

- ・ 相馬で頑張っているなあと思いました。
- ・ 元気に前向きの方がいらっしゃる相馬のファンになりました。相馬に行きたくくなりました。以前からボランティアをされていて、フットワークが軽くて素晴らしいです。
- ・ 小中学校での放射能測定を始めるまでのやり取りは、どこでも起こりうる行政の体質なのだろうなと思いました。残ったご自宅の写真はインパクトあります。相馬をもっとよくするために頑張ってください。ありがとうございます。
- ・ 思いを伝えるのは数ではない。ハートがあれば必ず伝わる。同じ思いの人々が自然に集いそしてパワーになる。小幡さんの話はとてもインパクトがありました。つらい経験を見事に糧として前に進んでいらっしゃる生きざまにたくさんのパワーと勇気をいただきました。
- ・ 支援、支援の言葉が飛び交ってきたが「これから一緒に」という言葉があってもよいなど。私たちよりエネルギーも誠意もお持ちの方々に対して支援という言葉は失礼ではと改めて思った。
- ・ 相馬に行った人から人と触れ合い語り部の方も素敵だと聞きます。なかなか観光で行くことは少ないですが、たくさんの方々足に足を運んでもらえることが増えるといいですね。相馬大好きという言葉もよかったです。
- ・ 自分の仕事が地域の再生につながっていくならば、理想的であると思う。皆がそういう意識を持って生きていけたらよい。「自分の心のうち」をいつも考えていきたい。
- ・ 御自身が被災しながらも常に前向きな考えと行動、素晴らしいです。
- ・ 大変な状況下、「自分がやらなくては」という気持ちで続けてこられたことを素晴らしいと思います。
- ・ 若くて実行力のある人の体験話、地元の人たちもどれほど力になったことでしょうか。
- ・ 小幡様の想いが伝わり、よい時間を過ごせました。
- ・ 直接体験した方のお話をお聞きできてよかったです。放射線測定どうしてやるの？あの時県や国が信用できなかつたから、が心に響きました。「一歩踏み出す勇気」や度胸が大事ですね。「支援」はピンとこない、一緒にやってみましょう、という感覚、と言われたのはとても共感できました。

- ・ 質問コーナーはよいと思いました。ありがとうございました。
- ・ 小幡さんの行動力にはおどろき！！
- ・ 支援をしてほしいと思っていないという言葉聞いて震災から年月が経つと変わっていくという当たり前のことに気づき、他の人にも伝えられたらと思いました。
- ・ 小幡さん御自身が被災されているのに、地元相馬のために本当にたくさん活動をされていることに感銘を受けました。思いはあってもなかなか行動を起こせる人は少ないと思います。自分のためばかりではなく、かかわっている人のためという考え方が素晴らしいと思いました。
- ・ 元気をいっぱいもらった感じです。まだまだ自分もすることがあるのかな！何かしなければ。
- ・ 一歩踏み出すことの大切さ、それを継続したこと、それを多分家族が認知し応援したことがすごいと思います。
- ・ 歯に衣着せぬ語り口、率直な講演内容でよかったです。人柄が伝わりました。限られた時間の中でしたが相馬という地域のことが伝わってきました。一歩踏み出す勇気、これがなかなか持てないんですね(苦笑)
初めて参加しましたが、貴重な時間に参加させていただきありがとうございました。渡辺代表をはじめ事務局の皆様、お疲れさまでした。
- ・ 「前向きな話で」との前提通り、個人的に共感できて参考になる話が聞けました。
- ・ 震災当時の経験談は土木関係者の話を初めて何うことができ参考になりました。「そうま食べる通信」を始めて食に対する福島風評に変化があったのかなど、成果などがあれば教えていただきたい。
- ・ ①マイクがよく聞こえない(クリアでない)or 会議室が響く。
②相馬の住人で実際にもがかれている人の話を聞いて感銘した。
- ・ ぜひ相馬に行ってみたい。
- ・ 行動は熱量充分なのに「一歩を踏み出す勇気だけ」という気負いのない言葉に小幡さんの人柄を感じました。
- ・ 積極的な行動に感動しました。

6. 今後の講演会の企画に向けて、どのような方のお話を聞いてみたいですか？

- ・ 直接体験された方、語り部をしてらっしゃる方、それぞれお聞きしてよかったという話をしてくださいと思います。
- ・ 子供たちにかかわっている方(先生など)から、今の相馬の教育、今後必要とされていることについて知りたいです。
- ・ 在京で東北の支援をされている方の今までと今後の方針。
- ・ 今回の講師のように地域に根付いた人々の話を伺いたい。
- ・ 特に指定はありません。どんな話でも結構です。ありがとうございました。
- ・ 農業や水産業など1次産業に従事されている方(部会ではあまりなじみのない)
- ・ 「可能性の種」よいテーマだと思います。

- ・ 関東に住む私たちが福島の現状を周りの人に知り理解してもらうためにできることは何か。

7. あなたご自身についてお答えください。

性別

男性	12
女性	17
無回答	2

年代

20代	0
30代	0
40代	5
50代	11
60代	9
70代以上	4
無回答	2

職業

会社員/会社役員	6
公務員	1
自営業	5
パート/アルバイト	3
学生	0
専業主婦（主夫）	4
その他	5
働いていない	5
無回答	2

※自由記述については原則としてご記入いただいたまま掲載していますが、明らかに誤字脱字と思われる記述は修正させていただきました。